

水産加工業の復興状況をお知らせします

東日本大震災で被災した水産加工業の復興を支援するため、本市では様々な復興関連事業を実施しています。震災から3年目を迎えましたが、これまで切れ目無く復興関連事業を進めたことにより、着々と水産加工業の復興が進んでいます。

水産業共同利用施設復興整備事業 (復興庁所管復興交付金事業)

地域水産業の復興を目的として、被災された漁業者団体や水産加工流通業者を対象に施設整備について東日本大震災復興交付金を活用し、国とともに支援する事業です。現在、公募により選ばれた8つの事業所が水産加工場などの整備を進めています。



明興水産(株) 代表取締役社長
松永 賢治さん

▼独自に整備した自社船。事業展開に大きな役目



▲カツオの水揚げ

以前は主に静岡県焼津で事業をしており、塩竈では加工だけをしていました。塩竈での本格的な販売をするようになったのは5年前からです。

さらに新しい事業の展開を模索していたところにこの整備事業の話がありました。幸い事業に採択され施設が整備でき、また以前から計画していた自社船も間もなく操業できますので、ほかの魚種も取り扱って塩竈に合った加工品を製造したいですね。マグロのイメージが強い塩竈を幅広い水産の街となるよう、先頭に立って全国にアピールしていきたいですね。

水産業共同利用施設復旧整備事業 (水産庁所管事業)

水産関連の組合が国・県の補助を受けて水産加工施設などの復旧整備を行う事業です。現在は魚市場に水揚げをする船に氷を供給するための冷凍冷蔵倉庫の新築工事が進められています。



仮設水産加工場整備事業 (独立行政法人 中小企業基盤整備機構)

(独)中小機構の支援事業により、仮設の水産加工場を4区画、水産加工開放実験室として1区画、整備しました。現在は仮設工場での操業、水産加工開放実験室では水産加工品の品質検査などが行われています。



▲現在操業している仮設工場



岸柳水産(株) 代表取締役
岸柳 乃布夫さん



▲開放実験室の外観



▲加工品を検査する機器類

平成24年2月の入居以来、赤魚の粕漬を主力商品としながら、調味した切り身などの製造、出荷をしています。震災により前の工場が壊滅的な被害を受けましたが、仮設工場での操業により業績を震災前の8~9割にまで回復できました。現在は新しい工場の建設を進めていますので、塩竈の水産加工品を全国にお届けできるよう、頑張ります！